

* 特別公開「雛と雛道具」展示作品リスト *

NO.	名称	数量	年代	所蔵
弥千代の雛と婚礼調度				
1	やちよ ひなどうぐ 弥千代の雛道具	85件	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
2	やちよ かご 弥千代の駕籠	1棹	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
旧家の雛				
3	こきんびな 古今雛	1対	昭和時代前期	本館蔵(加納基弘氏寄贈)
4	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵(高崎正之氏寄贈)
5	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵(森嶋美代子氏寄贈)
6	こきんびな 古今雛	1対	明治～大正時代	本館蔵(清水隆子氏寄贈)
7	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵(青柳和子氏寄贈)
8	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	明治33年(1900年)	本館蔵(山本高嗣氏寄贈)
9	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵(山田米子氏寄贈)
10	まめにんぎょう 豆人形	1揃	大正～昭和時代	本館蔵(山田米子氏寄贈)
11	みつおりにんぎょう 三折人形	2軀	江戸時代後期	個人蔵
12	まめびな(つげたり ひなどうぐ) 豆雛(附 雛道具)	1揃	江戸時代末期	個人蔵

写真解説

1 弥千代の雛道具 85件 (写真はその一部) (作品リストNO.1)

江戸時代後期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

貝桶かいおけや三棚さんたな、挟箱はさみばこなど85件からなるミニチュアの調度類。弥千代の婚礼に際し、婚礼調度を模してあつち誂えられました。井伊家の家紋である橘たちばなもん紋と共に、根引きの小松、笹竹、梅うめがえ枝の模様が描かれ、全体に統一感ある意匠となっています。



弥千代の雛道具のうち 駕籠・長柄傘

駕籠 高 31.5cm

長柄傘 高 45.0cm

弥千代の婚礼調度として伝わる駕籠かごと長柄傘ながえがさのミニチュアです。

駕籠は黒漆塗に豪華な金蒔絵きんまきえが施された女乗物おんなのりものと呼ばれるもので、高貴な女性専用の乗り物です。実物に比べると、横幅が狭いや縦長の形であり、大きさは約3分の1。随所に銀の飾金具が施され、内側には鮮やかな彩色で花鳥画が描かれています。

長柄傘は、日よけ、雨よけのために差し掛けるものです。

この展示では、実物の駕籠も展示します。実物と見比べることで、ミニチュアの精巧さをじっくりご覧いただくことができます。



2 弥千代の駕籠 1棹 (作品リストNO.2)

縦82.3cm 横112.2cm 高106.5cm

江戸時代後期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

弥千代の婚礼調度として調えられた駕籠かごです。黒漆塗に井伊家の家紋の橘紋と、松平家の家紋の葵紋が、松竹梅の模様とともに金蒔絵きんまきえで表わされています。随所に飾り金具が付けられ、内側には鮮やかな彩色で花鳥画が描かれています。



3 古今雛 1対 (作品リストNO.6)

男雛 高45.0cm 女雛 高50.5cm

明治～大正時代

本館蔵 (清水隆子氏寄贈資料)

男雛と女雛の1対。公家風の衣装をまとり内裏雛の一種で、江戸時代明和年間(1764～1772)に江戸の人形師原舟月が創始した古今雛と呼ばれるものです。造作は、細部までよく整えられており、目元や口元、髪の毛の生際などを描き出す柔らかな筆遣いは、制作者の確かな技量を感じさせます。



4 雛御殿飾り 1揃 (作品リストNO.8)

高 64.5cm

明治33年(1900年)

本館蔵 (山本高嗣氏寄贈)

紫宸殿を模した御殿の中に男雛と女雛、官女を、御殿の周りには隨身や仕丁などを配した雛御殿飾りの1揃です。雛御殿飾りは、江戸時代の末頃から盛んに行われるようになり、明治時代には広く普及しました。

この御殿飾りは、明治33年(1900年)3月に生まれた千代という女性の初節句のために、京都で製作されたものです。御殿は大振り、飾り金具をあしらった葺戸や房飾りの付いた御簾など、細部まで丁寧に作り込まれています。明治期の雛飾りを今に伝える貴重な優品です。

